

Trainee's Mate

No.195 April 2009 < Hiragana/English version >
Issue: Japan International Training
Cooperation Organization (JITCO)
Public Relations Division,
Administration Department
Tel: 03-6430-1166
Address: Sumitomo Hamamatsucho Bldg. 4F
1-18-16 Hamamatsucho, Minato-ku,
Tokyo 105-0013

研修生の友

第195号 2009年4月 < ひらがな・英語版 >

発行 財団法人 国際研修協力機構 (JITCO)
総務部 広報室 電話: 03-6430-1166

〒105-0013
東京都港区浜松町 1-18-16 住友浜松町ビル 4F

Information on the Industrial Training and Technical Internship Program



けんしゅう じっしゅうじょうほう 研修・実習情報

おくりだ きかん うけい きかん やくわり

一 送 出 し 機 関 と 受 入 れ 機 関 の 役 割 一

けんしゅうせい ぎのうじっしゅうせい みな にほん ぎじゆつ ぎのう ちしき しゅうとく きこくご ぼくく はってん こうけん たいせつ やくわり
研 修 生 ・ 技 能 実 習 生 の 皆 さ ん は、 日 本 で 技 術 ・ 技 能 ・ 知 識 を 習 得 し、 帰 国 後、 母 国 の 発 展 に 貢 献 す る と い う 大 切 な 役 割
に な り 担 っ て い ま す。 皆 さ ん が 日 本 で 研 修 ・ 技 能 実 習 を 行 う に 際 し て、 皆 さ ん の 母 国 で は 研 修 生 派 遣 を 行 っ て い る 機 関 ま
た は 皆 さ ん の 所 属 し て い た 企 業 が 送 出 し 機 関 と し て、 ま た、 日 本 で は 受 入 れ 団 体 及 び 受 入 れ 企 業 が 受 入 れ 機 関 と し て、 皆 さ
ん が 円 滑 に 研 修 ・ 技 能 実 習 を 受 け ら れ る よう に 支 援 し ま す。 送 出 し 機 関 と 受 入 れ 機 関 は 研 修 生 ・ 技 能 実 習 生 に 関 す る
協 定 を 結 ぶ と、 それ ぞ れ の 役 割 を 定 め て い ま す。

おくりだ きかん おも やくわり

一 送 出 し 機 関 の 主 な 役 割 一

おくりだ きかん みな にほん おく だ
送 出 し 機 関 は、 ① 皆 さ ん を 日 本 へ 送 り 出 す ま で、 ② 皆 さ ん が 日 本 に 在 留 中、 ③ 研 修 ・ 技 能 実 習 を 終 え た 皆 さ ん の 帰 国 後、
の それ ぞ れ の 段 階 で 皆 さ ん を 支 援 し ま す。

皆 さ ん を 日 本 へ 送 り 出 す ま で の 役 割 と し て は、 受 入 れ 機 関 に 協 力 し て 研 修 生 を 選 抜 し、 日 本 で の 研 修 が 円 滑 に 進 む
よ う、 日 本 語 や 日 本 で の 生 活 に 関 す る 基 礎 知 識 を 習 得 す る た め の 事 前 教 育 を 実 施 し ま す。 出 国 に 当 た っ て は、 パ ス ポ ー ト や
ビ ザ の 取 得、 航 空 便 の 手 配 そ の 他 の 出 国 準 備 等 を 行 い ま す。

皆 さ ん が 日 本 に 在 留 中 は、 受 入 れ 機 関 と 密 接 に 連 絡 を と っ て、 皆 さ ん と 母 国 の 家 族 や 派 遣 企 業 と の 間 の 連 絡 等 に 当 た
り ま す。 皆 さ ん が 重 大 な 病 気 や 事 故 な ど に 遭 遇 し た り、 ト ラ ブ ル に 巻 き 込 ま れ た 場 合 に は、 受 入 れ 機 関 と 協 力 し て 対 応 す
る な ど、 皆 さ ん が 安 心 し て 研 修 ・ 技 能 実 習 を 進 め ら れ る よう に 支 援 し ま す。

皆 さ ん が 研 修 ・ 技 能 実 習 を 修 了 し て 帰 国 す る 際 に は、 皆 さ ん が 帰 国 後 に 復 職 で き る よう に 派 遣 企 業 と 協 議 す る な ど
の 支 援 を 行 い ま す。

うけい きかん おも やくわり

一 受 入 れ 機 関 の 主 な 役 割 一

うけい きかん にほん にゆうこく あいだ おくりだ きかん きょうりよく え けんしゅうせい けつてい けんしゅうけいかく さくせい にゆうこく
受 入 れ 機 関 は、 日 本 へ の 入 国 ま で の 間 は、 送 出 し 機 関 の 協 力 を 得 て 研 修 生 の 決 定 や 研 修 計 画 の 作 成、 入 国
管 理 局 へ の 申 請 等 を 行 い ま す。 皆 さ ん が 研 修 生 と し て 入 国 後 は、 研 修 内 容 を 指 導 す る 研 修 指 導 員 や 生 活 面 の
ア ド バ イ ス を す る 生 活 指 導 員 を 置 い て、 研 修 計 画 に 従 っ て 適 切 に 研 修 を 実 施 し ま す。 そ の た め の 研 修 施 設 や 宿 泊 施 設
を 提 供 し ま す。 ま た、 皆 さ ん が 日 本 で 研 修 生 活 を 送 れ る よう、 生 活 実 費 と し て の 研 修 手 当 の 支 払 い や 研 修 中 の 事 故 等
に 備 え る 保 険 へ の 加 入 を 行 い ま す。 皆 さ ん が 病 気 に な っ た り 事 故 や ト ラ ブ ル 等 に 巻 き 込 ま れ た り し た と き に は 関 係 者 が
協 力 し て、 必 要 な 場 合 は 送 出 し 機 関 と も 連 絡 を と り、 適 切 な 対 応 を 行 い ま す。 研 修 生 の 受 入 れ に 必 要 と な る 往 復
渡 航 費 や 住 居 費、 保 険 料 等 の 経 費 は 原 則 と し て 受 入 れ 機 関 が 負 担 し ま す。

な お、 団 体 監 理 型 の 場 合 は 受 入 れ 団 体 と 受 入 れ 企 業 が 協 力 し て 研 修 事 業 を 実 施 し ま す が、 特 に 受 入 れ 団 体 は、 皆 さ
ん の 入 国 後 に 日 本 語 や 日 本 で の 生 活 の 仕 方 等 を 指 導 す る 集 合 研 修 を 行 い、 そ の 後 の 受 入 れ 企 業 で の 研 修 が 計 画 通 り
に 行 わ れ る よう、 受 入 れ 企 業 を 監 理 ・ 指 導 し、 定 期 的 に 研 修 の 実 施 状 況 を 入 国 管 理 局 へ 報 告 し ま す。

けんしゅうしゅうりょうご ぎのうじっしゅう いこう ぼあい うけい きぎょう にゅうこくかんりきよく しんせい おこな きよか う うえ みな
研修修了後、技能実習へ移行する場合は、受入れ企業が入国管理局への申請を行って許可を受けた上で皆さん
こようけいやく むす さくせい ぎのうじっしゅうけいかく したが じっせんでき ぎじゅつ ぎのう しゅうとく しえん うけい きぎょう つうじょう
と雇用契約を結び、作成した技能実習計画に従って、実践的な技術・技能の習得を支援します。受入れ企業は、通常
ろうどうしゃ たい どうよう ろうどうかんけいほうれいおよ しゃかいほけんかんけいほうれい じゅんしゅ ひつよう てつづ たいおう おこな
の労働者に対すると同様に、労働関係法令及び社会保険関係法令を遵守して必要な手続きと対応を行います。

いじょう おくりだ きかん うけい きかん みな けんしゅう ぎのうじっしゅう もくてき せいか あ きょうりよく と く
以上のように、送出し機関と受入れ機関は皆さんの研修・技能実習が目的の成果を上げるように協力して取り組んで
けんしゅうせい ぎのうじっしゅうせい みな せいど よりかい おくりだ きかん うけい きかん かんけいしゃ そうだん けんしゅう
います。研修生・技能実習生の皆さんは、制度を良く理解し、送出し機関や受入れ機関の関係者とよく相談して研修・
ぎのうじっしゅう はげ もくてき ぎじゅつ ぎのう しゅうとく にほん せいかつ とお にほん りかい
技能実習に励み、目的とする技術・技能を修得するとともに、日本での生活を通して日本のことをよく理解されることを
きたい
期待しています。

- The Roles of Sending and Accepting Organizations -

As trainees and technical interns, you all have important roles to play, having come to Japan to learn skills and gain knowledge with which you will make a contribution to your own countries' development. The organizations in your own countries responsible for sending trainees and the companies that dispatched you, together with the accepting organizations and accepting companies in Japan, are working to ensure that your experience as a trainee or technical intern in this country is smooth and trouble-free. Sending and accepting organizations establish a contract together to work for you, and each has its own role to play.

- The Main Role of the Sending Organization -

Sending organizations provide support to you at three stages: ① Until you are sent to Japan, ② While you are in Japan, and ③ When you return to your own country after completion of your training or technical internship.

The role of the sending organization before a trainee is sent to Japan is to select the trainee in cooperation with the accepting organization and to provide preliminary education, giving the trainee some basic knowledge of the Japanese language and life in Japan, to ensure that their training goes smoothly. The sending organization also organizes passports and visas, arranges flights and ensures that other preparations for departure are taken care of.

While trainees are in Japan, the sending organization maintains close contact with the accepting organization and also ensures that contact is maintained between the trainees and their families and companies at home. If a trainee should happen to become seriously ill, have an accident or get into some sort of trouble, the sending organization will work with the accepting organization to solve the problem. In other ways as well they work to ensure that trainees and technical interns can pursue training without any worries.

The sending organization also supports trainees and technical interns in a variety of ways after they return home, including making arrangements with sending companies to ensure that the returnees will be reemployed there.

- The Main Role of Accepting Organizations -

Accepting organizations have a number of duties before a trainee actually comes to Japan. They select trainees and formulate training plans in cooperation with the sending organizations, and they also make applications to the immigration authorities on behalf of the trainees. When the trainees arrive in Japan, the accepting organizations provide training instructors to offer technical instruction and lifestyle mentors to offer advice on lifestyle issues, to ensure that the trainees receive appropriate training in accordance with their training plans. They also provide training facilities and accommodation facilities to make this possible. In addition, they provide a training allowance to enable trainees to live comfortably in Japan, and ensure that they have insurance coverage in case of accidents. If a trainee becomes sick, has an accident or gets into some sort of trouble, the accepting organization will work with everyone concerned, and if necessary will contact the sending organization, to respond to the situation appropriately. As a rule, the accepting organization pays expenses that are essential for the trainee to be accepted, including return airfare, accommodation expenses and insurance premiums.

When we use Association Management Systems, an accepting association and the accepting company cooperate in the training program. When the trainees arrive in Japan, the accepting association provides them with intensive training, including instruction in Japanese and guidance on life in Japan. Following this, they oversee the accepting company's activities and offer advice to ensure that training proceeds in accordance with the training plan, and periodically report on the status of training to the Immigration Bureau.

If the trainees enter technical internships when their training is completed, the accepting company will make an application on their behalf to the Immigration Bureau. When approval is received, they will sign employment contracts with the trainees, and will proceed to help them to acquire practical skills in accordance with a technical internship plan. Just as they do in the case of their regular employees, the accepting company will undertake all the necessary procedures in order to comply with labor laws and social insurance laws.

In all of these ways, your sending and accepting organization work together so that you can achieve your goals in your traineeship or technical internship. At JITCO we hope that all our trainees and technical interns understand this system well and communicate with the relevant individuals at their sending and accepting organizations as they apply themselves to their training and gain the skills they are aiming at (and get to know Japan a lot better).

Message from JITCO



JITCOからのお知らせ

JITCO

—母国語相談の案内—

研修生・技能実習生の皆さんは、母国を離れて日本で生活し、技術・技能・知識を修得する上で、言葉や生活習慣の違いから、いろいろな悩みを抱えたり、トラブルに巻き込まれたりすることがあると思います。そういう時には、まずは受入れ企業の生活指導員、研修指導員や受入れ団体の担当の方に相談して、解決するようにしてください。しかし、言葉が通じないため、悩みや相談事についてうまく説明できず、トラブルが大きくなることも少なくないと思います。また、異国での言葉、文化、人間関係の違いに、悩みや不安、ときには苛立ちを感じる経験もすると思います。

JITCOでは、研修生・技能実習生の皆さんの母国語を話せる制度やその運用に詳しいスタッフを配置して、皆さんからの電話・手紙等での相談に応じています。皆さんが母国語で納得のいく説明を受けたいとき、また、悩みやトラブル、生活習慣の違いなどについて母国語で相談したい場合など、遠慮なく母国語相談をご利用ください。

利用日や時間帯等は、次のとおりです。

●対応できる言語

現在、研修生・技能実習生の出身国別人数で大きな割合を占めている、中国、インドネシア、ベトナムの3か国の言語です。

●電話相談の受付

- フリーダイヤル：0120-022332 一般電話：03-6430-1111
- 中国語：毎週木曜日 11時～19時（13時～14時休み）
毎週土曜日 13時～20時
 - インドネシア語：毎週火曜日 11時～19時（13時～14時休み）
毎週土曜日 13時～20時
 - ベトナム語：毎週金曜日 11時～19時（13時～14時休み）
毎週土曜日 13時～20時

●手紙の送り先

〒105-0013 東京都港区浜松町1-18-16
すみともはままつちようびるよんかい
住友浜松町ビル4階
財団法人 国際研修協力機構 企業部 相談課 宛

● 相談内容の例

- 日本での生活に、悩みや不満、理解不足等を感じたとき
- 研修の現場での指示が理解できなかったり、習慣や考え方の違いからトラブルになったりしたとき
- 宗教、食事、生活習慣、日本人の考え方等に関するアドバイスを受けたいとき
- 日本の法律や制度に関する問い合わせをしたいとき
- 日本の情報や母国の情報を知りたいとき

–A Guide to Native Language Advising–

We are aware that as trainees and technical interns living in Japan, far from your native language and culture, and busy acquiring technology, technical skills and knowledge, you may be plagued with concerns or become involved in troublesome situations. If something like this happens, first consult the lifestyle mentor, training instructor or person in charge at your accepting organization to try and solve the matter. However, you may not speak Japanese well enough to explain your concerns or need for advice, and in such cases, small issues can sometimes become more serious. At times, you may be worried, anxious or even angry about differences in language, culture and human relations between your country and Japan.

JITCO has hired staff members who speak your native language and would be able to direct you to the right authorities and assist you as necessary, by offering advice by phone or via correspondence. If you would like to receive an understandable explanation in your native language, or would like advice about concerns, problems, or differences in customs and lifestyles in your native language, do not hesitate to consult the Native Language Advisors.

Available languages and times are as follows:

● Available Languages

Consultation is available in the three languages spoken by the greatest percentage of current trainees and technical interns: Chinese, Indonesian and Vietnamese.

● Telephone Consultation Hours Toll Free 0120-022332 TEL 03-6430-1111

- Chinese: Every Thursday 11:00-19:00 (Lunch break:13:00-14:00) Every Saturday 13:00-20:00
- Indonesian: Every Tuesday 11:00-19:00 (Lunch break:13:00-14:00) Every Saturday 13:00-20:00
- Vietnamese: Every Friday 11:00-19:00 (Lunch break:13:00-14:00) Every Saturday 13:00-20:00

● Where to Send Correspondence

Consultancy Division

Training Facilitation Department

Japan International Training Cooperation Organization (JITCO)

Sumitomo Hamamatsucho Bldg. 4F

1-18-16 Hamamatsucho,

Minato-ku, Tokyo

〒105-0013

● Examples of when you may wish to seek advice

- When you are troubled about or dissatisfied with life in Japan, or when there are things about life here that you do not understand sufficiently.
- When you do not understand instructions during training or internship, or when problems arise from differences in habits and ways of thinking.
- When you wish to receive consultation about things such as religion, food, everyday customs, or “typical Japanese ways of thinking.”
- When you wish to inquire about such things as Japanese laws or institutions.
- When you would like information about Japan or about your home country.



えいご うた にほん だいひょうりょうり
 英語の歌にもある! 日本の代表料理
 かんさいふう や
 関西風すき焼き

ざいりょう よにんぶん
 材料 (4人分)

ぎゅうにく や ようすぎ よんひやくぐらむ や どうふ いっちょう はくさい こ しろねぎ いっぽん ひとふくろ なましいたけ よんまい
 ●牛肉 すき焼き用薄切り 400g ●焼き豆腐 1丁 ●白菜 1/2個 ●白ネギ 1本 ●えのきだけ 1袋 ●生椎茸 4枚
 しゅんぎく いち ひとふくろ ふ てきりょう さとう てきりょう たまご よんこ
 ●春菊 一わ ●しらたき 1袋 ●麩 適量 ●砂糖 適量 ●卵 4個

[ちょうみりょう]
 [調味料]

ひやくごじゅうみりりつとる ひやくごじゅうみりりつとる さけ ひやくごじゅうみりりつとる
 ●しょうゆ 150ml ●みりん 150ml ●酒 150ml

つく かた
 作り方

- 焼き豆腐、白菜、春菊は食べやすい大きさに切る。白ネギは約10cm長の斜め切りにし、えのきだけは根元を、しいたけは石づきを切り落とす。麩は水で戻し、しらたきは水洗いして食べやすい長さに切っておく。
- すき焼き用の鉄鍋を加熱し、牛肉を広げてのせて、牛肉のあぶらを鍋全体にいきわたらせるようにして火を通す。砂糖と調味料を少し加え、味付けをする。
- 白ネギを入れて少々焼きつけてから、野菜を並べていれる。調味料を加えて、砂糖で甘みを調整しながら煮立てる。
- 野菜に火が通って、煮詰まってきたら出来上がり。溶いた卵に具をからめていただく。

- * すき焼きは地方や家庭の味があり、作り方もさまざまです。たとえば、しらたきの代わりに糸こんにゃく、白菜のかわりにキャベツ、そのほか、輪切りにしたタマネギを牛肉と一緒に焼きながら入れると甘みが増します。ブナシメジやエリンギなどキノコ類をふんだんに使ってみるのもおすすめです。
- * 濃い味、薄味と一般的に味付けが異なると言われる関東と関西の料理ですが、すき焼きの作り方も違いがあります。だし汁としょうゆ、みりんなどを合わせた調味料の割り下で最初から具材を煮るのが関東風。これに比べて、関西風は最初に肉を焼いて味を付け、その後具材を入れてから調味料で味付けしていきます。
- * 日本の名曲、坂本九さんの『上を向いて歩こう』が『スキヤキソング』として知られていることもあり、すき焼きは日本を代表する料理の一つとして海外でも人気があります。
- * 残ったすき焼きにうどんと卵を入れて味付けしたり、丼ものに仕立てたり、食べ方の工夫も楽しめます。

Kansai-fu Sukiyaki

A Famous Japanese Food that Even Features in an English Song!

Ingredients (Serves 4)

- 400 g beef, thinly sliced for *sukiyaki* ●1 block of grilled tofu ●Half a Chinese cabbage ●1 *shironegi* (Japanese leek)
 - 1 pack of *enokidake* mushrooms ●4 fresh *shitake* mushrooms ●1 bunch of *shungiku* ●1 pack of *shirataki* noodles
 - As much *fu* (wheat gluten bread) as desired ●Sugar to taste ●4 eggs
- (Seasonings)
- 150 ml *shoyu* ●150 ml *mirin* ●150 ml *sake*

Preparation

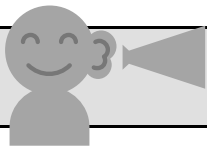
- Cut the grilled tofu, Chinese cabbage and *shungiku* into bite-sized pieces. Cut the *shironegi* diagonally into 10 cm-long pieces. Cut the roots off the *enokidake* and the stems off the *shitake* and discard. Place the *fu* in water to soften it, and cut the *shirataki* into bite-sized lengths.
- Heat a cast-iron *sukiyaki* pot. Spread the beef out in the pot, and cook so that the fat from the beef spreads throughout the pot. Flavor by adding a little of the sugar and the seasonings.
- Add the *shironegi* and sear briefly, and then add the vegetables to the pot. Add the seasonings, and simmer while adding sugar to adjust the flavor as preferred.
- The dish is ready when the vegetables are cooked and the liquid has boiled down. Eat from the pot, dipping each ingredient in beaten egg before you eat it.

* The flavor of *sukiyaki* varies from region to region and household to household, and there are also various methods of preparation. For example, thread *konyaku* can be used in place of the *shirataki*, or western cabbage can be used instead of Chinese cabbage. The flavor can be made sweeter by cooking the meat with round slices of onion. We also recommend using plenty of mushrooms, such as *buna-shimeji* and *eringi*.

* The flavors of Kanto and Kansai cooking are generally different, with the former being considered richer. The method of cooking *sukiyaki* also differs between the regions. In Kanto, the ingredients are cooked from the start in a broth made from a mixture of *dashi-jiru*, *shoyu*, *mirin* and other flavorings. In Kansai, the meat is cooked first with a little flavoring, after which the other ingredients and the rest of the seasonings are added.

*The song "Ue o muite aruko" by Kyu Sakamoto is also known as "Sukiyaki." *Sukiyaki* is one of the most famous Japanese dishes, and is also popular overseas.

*It is also fun to experiment with different ways of eating *sukiyaki*. For example, *udon*, eggs and flavorings can be added to leftover *sukiyaki*, or it can be used to make a *donburi*.



日本のいま ～マラソン～

オリンピック競技の一つとして、また誰もが気軽に挑戦できる人気のスポーツとしても注目されているマラソン。モデルの長谷川理恵さんの美しい走りが女性ファッション誌やテレビなど各メディアで報じられる中、ダイエットや健康志向の女性たちの間でマラソン人気は高まりつつあります。

国内外で行われる主要なマラソン大会では、日本の芸能人たちも参加するハワイの Honolulu マラソンが有名ですが、日本では市民参加型の大規模シティマラソンとして都心をコースとした東京マラソンが2007年から開催されており、今年3月22日に開催されました。

ヨガやコアリズム、ピラティス、ブートキャンプなど数々のエクササイズがダイエットやストレス発散に効果があると女性たちの間でとてもはやっていますが、マラソンもその一つ。また、おしゃれなスポーツウェアやシューズにとどまらず、好きな音楽を聞きながら走るというファッションブルなスタイルも、流行に敏感な日本の女性たちの心をつかんだ理由の一つなのかもしれませんね。

Today's Japan Marathons

The marathon is well known as an Olympic event, and as a popular sport that anyone can challenge themselves with. With model Rie Hasegawa's graceful running style being publicized in women's fashion magazines, television and other media, the popularity of marathons is increasing amongst diet- and health-conscious Japanese women.

Major marathons are held in Japan and overseas. The Honolulu Marathon in Hawaii, which Japanese entertainers also run in, is a famous one. In Japan, the Tokyo Marathon is a huge city marathon with the center of Tokyo as its course, designed for ordinary citizens to participate in. The Tokyo Marathon began in 2007; this year's event was held on March 22nd.

There are a wide variety of exercise routines that help you lose weight and relieve stress, and which are extremely popular among women, such as yoga, Core Rhythms and Billy's Boot Camp. And now marathons are another. Japanese women tend to be very conscious of fashion, and that marathon running can be stylish – you can run in fashionable sportswear and shoes while listening to your favorite music – is thought to be part of the reason that the sport has captivated them.

ことばの歳時記 ～4月の季語～

日本には春夏秋冬という四季があります。一般的に3～5月を春、6～8月を夏、9～11月を秋、12～2月を冬と区切りますが、気候の変化とは必ずしも一致していません。日本の気候は緩やかに移行し変化していくため、そもそも季節を4つに区切るのには難しく、二十四節気や古代中国で考案された季節を表す方式のひとつである七十二候を用いて表現することもあります。

さて4月のことを、日本では卯月（うづき）と呼びます。卯月の由来は、卯（ウツギ）の花が咲く月「卯の花月（うのはなづき）」を略したものというのが定説となっています。日本では4月は、新年度や新学期のはじまる節目の月であり、学校・会社などでは入学式・入社式が行なわれます。

4月の季語には、花にまつわるものが多いのが特徴です。「桜」はもちろんのこと、「花曇」（桜の花の咲くころの、薄くぼんやりと曇った空模様）、「花冷え」（桜の花の咲くころ、急に寒くなること）、「花吹雪」（桜の花の散ること）などがあり、どの言葉も日本語の奥深さと優美さを感じることができるのではないのでしょうか。

A Calendar of Words Seasonal Words for April

Japan has four seasons. We generally classify spring as lasting from March to May, summer as lasting from June to August, fall as lasting from September to November, and winter as lasting from December to February. However, these classifications don't necessarily always match the changes in the weather. Changes in the weather are gradual in Japan, and so it is difficult to divide the transitions up into four seasons. For this reason, we sometimes talk about the seasons using a system of 24 or 72 seasonal divisions, or a system of 72 seasonal divisions, one of the systems that originated in ancient China.

In Japan, the fourth lunar month is known as *uzuki*. The fourth month is when the *utsugi* (Deutzia) flowers bloom, and it is generally accepted that the name of the month originated from a contraction of “*u no hana-zuki*” (“month when the Deutzia blossoms”). April in Japan is the month when the new fiscal year and new school year start, and so schools and companies hold entry ceremonies during this month.

April is unusual in having many seasonal words that refer to flowers. Of course there is *sakura*, but we also have *hana-gumori* (referring to the hazy, cloudy sky at the time when the *sakura* blossom), *hana-bie* (a sudden cold snap at the time when the *sakura* blossom), and *hana-fubuki* (the scattering of the *sakura* blossoms), among others. The profundity and beauty of the language can be felt in all of these words.